

会 長 挨拶

多賀城ロータリークラブ
会 長 田 口 俊 男

多賀城ロータリークラブ創立30周年記念式典にあたり、ご挨拶申し上げます。本日のよき日、国内外より多くのご来賓をお迎えして、この記念すべき式典を行うことができ、会員を代表致しまして深く感謝を申し上げます。

当クラブは1972年、昭和47年の3月25日に創立し、5月3日に国際ロータリーより正式に承認されたクラブであります。

スポンサークラブは仙台東ロータリークラブで、特別代表は当時の東北三菱自動車の社長をなさっていた佐藤一雄さんでした。

初代の会長は、多賀城製作所社長の遠藤信五郎さんで、23名のチャーターナイトメンバーで創立されました。

この年には沖縄返還や、日中国交正常化、そして連合赤軍浅間山荘事件、グアム島で横井さん救出と、世界の情勢が大きく変わろうとしていた年でもありました。

さて、多賀城ロータリー30年という長い歴史の中で、一人もガバナーを出しておりませんでした。次年度(2002～2003)チャーターメンバーの宮城東蔵氏が当クラブでは初めての2810地区のガバナーとなることになっております。

この事は、当クラブとして名誉な事であり、30年目の節目として大きな期待を抱いております。又、現在も宮城会員の他にチャーターナイトメンバーとして、元気で在籍されている方は、次期地区代表幹事の新実勝雄会員・次期地区幹事の千葉妙雄会員です。

御三方は、現在48名の会員の牽引者としてもご活躍されております。我がクラブは永きにわたり、様々なロータリー活動を通じ、地域社会に奉仕し、国際親善や文化交流も積極的に行ってまいりました。

今回、遠い海外の韓国よりわざわざお祝いに駆け参じて下さいました、江陵ロータリークラブとは、1980年の10月23日に姉妹クラブを締結し、国際親善の輪も

広めて参りました。

又、1997年11月13日には、万葉を編纂した歌人、大伴家持が縁となり、富山県の高岡万葉ロータリークラブとの友好クラブ締結が行われました。このように両クラブとの永いお付き合いをさせていただいております。

今日は、この両ロータリークラブから多勢の仲間がお祝いに駆け参じて下さっております。変わらぬロータリーの友情の輪を感じており、心より感謝を申し上げます。

30年の歩みの中で、米山奨学生10人 青少年交換留学生受入4人 青少年交換留学生派遣4人と、多くの支援を行って来た事も私たちの誇りとするところです。

さて、ご存知のように1905年、今から97年前、法律家のポール・ハリスと4人の友人が米のシカゴで第1回の例会を開いたとされており、これがロータリーの始まりでした。当時、アメリカは大恐慌に見舞われ、経済も大混乱をきたした時代で、経済界において自己保全のみに奔走した時代でもあり、この現状にポール・ハリスは失望と疑問を感じ、孤独より解放された相互扶助を求めて実業家の仲間たちとロータリークラブを創ろうとしたのです。

今日の日本経済の行方、大恐慌への不安・・・あのポール・ハリスがロータリーを創った時代を今、我々が実際に体感しているのではないのでしょうか。

我が多賀城ロータリークラブは、30周年を期にロータリー精神の原点に還り、仲間と共に考え、新しい時代のロータリー活動を行って行きたいと考えております。

終りに、ご参会の皆様の今一層のご指導ご鞭撻をお願いし、挨拶と致します。



歓迎のことば

30周年記念実行委員

委員長 新 実 勝 雄

本日は皆様ようこそお越し下さいました。一言ご挨拶を申し上げます。

本日は桜花爛漫のこの季節に、歴史のまち又史跡のまちでもあるこの地、多賀城市に於いて、我が多賀城ロータリークラブ創立30周年式典を開催致しましたところ。当クラブの名誉会員でもあります多賀城市長の鈴木和夫様を始め、多くのご来賓、そして遠くは姉妹クラブの国際ロータリー第3730地区、大韓民国江陵ロータリークラブの皆様方、又同じく古くから文化と歴史を持ち、しかも万葉の詩人、大伴家持が取り持つ縁で、友好クラブでもある高岡万葉ロータリークラブの皆様方にもご参加を戴き、本式典に錦上添花を添えていただきまして、皆様方の温かい友情に対し、深く感謝を申し上げる次第でございます。そして、地区ロータリー関係からは、国際ロータリー第2810地区ガバナー、皆川清先生を始め、国際ロータリー元理事、菅野多利雄先生、それにパストガバナーの諸先生方、又ご来賓の地区内外からの多数のロータリアンの皆様方のご参会を得まして、ここに多賀城ロータリークラブ30周年の式典を盛大に開催出来ます事は誠にありがたく、多賀城ロータリークラブを代表致しまして心から歓迎と感謝を申し上げる次第でございます。

さて、我が多賀城ロータリークラブは、仙台東ロータリークラブのスポンサーで、今は亡き特別代表の佐藤一雄先生の熱心なご指導によりまして、1972年即ち昭和47年3月25日、創立総会にて発足致し、5月3日に国際ロータリーより認証されまして、6月18日に会員23名にて、故 山元壮一郎 宮城県知事を迎え、今は亡き笹気ガバナー、パストガバナーの諸先生方、ロータリアン及び家族の皆様方の御参席をいただいて多賀城公民館に於いて、盛大に認証状伝達式が行われました。

それから今年で30年の歳月が流れました。全国で1,113番目、地区で57番目、圏内で28番目のロータリークラブが誕生となった訳でございます。

ここで多賀城ロータリークラブ30周年を振り返り、会員数の経緯を申し上げますと、会員数は10周年30名、20周年52名、今年度48名となっています。

入会者は現在まで161名、物故会員11名、退会者は102名となっています。退会者はその間に転勤になった人々、また種々の事情で去って行った人々、皆何らかの形でクラブに功を残して行かれた懐かしい思い出の残る人達でありました。ある時は感激と誇りが、又ある時は不安と焦燥が織り成す感慨を抱きつつ、それぞれの想いを静かに省みますと、走馬灯のように思い出されます。

又、一方ロータリーの柱である奉仕活動を続けて、数々の実績を重ねて参ったところであります。

国際奉仕では、菅野多利雄元R I理事のお世話で、22年前の昭和55年6月に国際ロータリー第3730地区韓国江陵ロータリークラブと姉妹クラブを締結され、今でも深い交流を持ち続けており、この式典に24名の大勢の会員の方々がお祝いに駆けつけて下さっています。

又、この30周年記念事業として、去る4月4日、国府多賀城駅構内に歌人大伴家持を偲ぶ記念碑を建立し、多賀城市に寄贈致しております。

今国際ロータリークラブは、世界各地160数ヶ国に120万人を数える世界最大の奉仕団体となっております。これらの人々は創立者ポールハリスの考えである奉仕の心を継承しながらあと3年でロータリー創立100年祭が訪れようとしています。

皆様に祝福され、30周年記念式典が盛大に行われる時、我が朋友、宮城東蔵君を2002～2003年度の地区ガバナーに送り出す事となりました。クラブ会員一同大変光榮に思っている所でもあり、身の引き締まる思いで、会員一同団結して今から取り組んでいるところであります。今後もこの30年の奉仕活動を土台として、地域に密着した活動を最重点として益々国際視野を広め、地域から親しまれる奉仕の道を歩んで行くつもりです。

最後になりましたが、当多賀城クラブも40周年、50周年に向けて、益々発展するであろうし、まさにロータリーは永遠である事を確信するものであります。

これまでにお寄せいただきました友情とご支援に篤く感謝を申し上げますと共に、今後これを契機と致しまして、当クラブがより充実した活動を続けて参りますために、一層のご理解とご高配を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりにりましたが、本日ご列席賜りました皆様の益々のご健勝とご活躍なされます事をご祈念申し上げ、歓迎と御礼の言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



30周年をお祝いして

第2810地区ガバナー

皆川 清

本日の創立30周年誠にありがとうございます。心からお祝い申し上げます。

さて30年前の1972年はどんな年だったのか少々振り返ってみました。先ず沖縄県の誕生でした。当時アメリカはニクソン大統領で、日本は長期政権の佐藤栄作首相でありました。

又、この年アメリカが秘密交渉を経て中国を訪問、日本は半年遅れで日本改造論を打上げて首相になった田中角栄氏が日中国交樹立を果たしました。

時は高度成長時代の真っ只中、土地ブームに沸いた。今からして見れば羨ましい限りの浪費の時代でした。30年を経た今、そのつけは大きく、ここ日本でも色々改革をしている所ですが、うまく行くことを願っている次第です。又、その年はスポーツ界では高見山が外国人力士として、始めて名古屋場所で優勝を致しました。ちなみにこの頃の日本の経済は円の変動相場制移行も伴って、ますます輸出が拡大し円高となって行きました。

つまりこの年は、転換期としての一つの節目の年であると言えます。この時の国際ロータリーのテーマは「善意は、先ずあなたから」でした。アンストGブライツホルツ会長の時です。

多賀城ロータリークラブ様が30周年を迎えられた今日、クラブでは地域に根差した奉仕活動と身近な処からの国際奉仕を展開される中で、宮城ガバナーエレクトの誕生を見ることが出来た事です。

岩手との合併を前に「宮城は立派に宮城で締めて見せる」との心強い言葉に菅野先生始め、バストガバナーの先生方や、私も大変安堵しているところです。特に多賀城クラブさんの良いところは例会後の“好意と友情の場”としてのコーヒープレイクの実施です。こういう所からの親睦の積み重ねが一つのエネルギーとなってガバナー誕生とそれを支える力となっているのではないかと思う訳であります。

中国の書というのは、畳み掛けるような書き方をするが、日本の書は踊りや武芸のように間を取るそうです。それは細やかさであり、思いやりなのです。そして紛れも無く情緒の豊かさであり、怨の心なのです。

田川会長さんの処でお造りになっている蘭の栽培には、大変な繊細さが加わっており、実に5ヶ月という永い花の観賞が可能なのです。こうした会長さんの下で迎えられた30周年は、次期ガバナー年度の大きな弾みとして捉えられ、更なるクラブのご隆盛を願いたいと思います。

今までの活動を基にして更なる輪を拡大し、地域が益々よりよい社会となりますよう、会員皆様の一層のご活躍とご繁栄をご祈念申し上げ、祝辞と致します。



祝 辞

多賀城市長 鈴木 和 夫

今まさに桜花爛漫、春うらかな今日の良き日に、多賀城ロータリークラブ創立30周年記念式典が、大勢のご来賓を得て盛大に開催されますことは誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

多賀城ロータリークラブは、昭和17年に創立され、また国際ロータリーに加盟承認されてから30年目と言う輝かしい年を迎えられた訳であります。

この間、貴クラブは極めて順調な発展を遂げられ、奉仕の理念に基づいて業界各界の方々との連携を強固に保ちながら、奉仕活動はもとより、国際親善も深められ、本地区に於いて確固たる基盤を築かれておりますことは、誠にご同慶に堪えない次第であります。

改めて衷心よりお祝いを申し上げます次第であります。また、先日は昨年9月に開業いたしました、国府多賀城駅の広場に、多賀城ロータリークラブ30周年記念事業の一環として、扇畑忠雄先生の歌碑を建立いただき、厚く御礼を申し上げます次第であります。

建立いただきました歌碑につきましては、市民の方々に愛され、また親しまれ、更には大勢の観光客の方々にも見ていただけるよう、様々な機会を捉えてアピールして参りたいと考えておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

本市もこのように、皆様方の力強いご支援、またご協力を得て、歴史的文化遺産と職住接近と言う恵まれた立地条件を活かした施策を積極的に推進し、今や人口6万人を超える県内有数の都市に成長し、「活力とふれあいのあるまち 史都 多賀城」として、力強く歩み続けておるところであります。

特に、本市長年の懸案事項でありました、多賀城駅周辺土地区画整理事業も今月15日に着工を迎えるまでとなっており、着々とまちづくりを進めているところであります。

また、高橋地区、城南地区で進められておりました土地区画整理事業も順調に進み、これまでとは全く違った新しい町並みが形成されようとしております。

この高橋、城南地区の土地区画整理事業が完成し、全ての土地に住民が住む事になれば、人口6万5千人に及ぶ都市に成長するものと大いに期待しているところであります。

本市と致しましては、市民の皆様方が住んで良かった、事業を営んで良かったと思えるまちの実現を目指し、鋭意努力して参りますので、どうかロータリークラブの皆様方には今後とも特段のお力添え、またご理解を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

結びに、謹んで多賀城ロータリークラブの創立30周年をお祝いし、本日の式典のご盛會を心からお喜び申し上げますと共に、多賀城ロータリークラブの益々のご発展、併せて本日ご来場の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、お祝いの言葉と致します。本日は誠にありがとうございました。



祝 辞

国際ロータリー元理事
菅野 多利雄

江陵ロータリークラブには、朴善圭バストガバナーがガバナー時代に、多賀城ロータリークラブの姉妹提携のお膳立てをさせて頂いた記憶があり、皆様方の来日を大変心待ちに致しておりました。皆様方のご滞在が大変楽しく実りあるものでありますよう祈念致します。

又、高岡万葉ロータリークラブの皆様、お久しぶりです。皆様方の2610地区には、私がガバナーを終わりました数年後、始めて国際ロータリーの会長代理で七尾の大会に田中嘉太郎ガバナーの時に伺い致しました。その節、兼六園の茶室に呼んで頂き、皆さんとお茶をご馳走になりましたが、私はお茶の作法が解らずに行儀が悪くて、全てを心得ておられる皆様の前で恥をかいた事を覚えております。その経験が良かったと思います。その後茶碗の廻し方や、飲み方だけは覚えましたので、どうぞ又ご招待いただければと思います。

さて、多賀城ロータリークラブの創立30周年おめでとうございます。宮城・新実・千葉の三氏が創立会員として、この30周年を迎えられ万感胸に迫るものがおありだろうと拝察致します。宮城ガバナーエレクトを引っ張り出してガバナーになって戴くと言う事で当地区の指名委員の方々も大変ご苦労された事と思います。現在の経済状況の中で決断された決意と勇氣に対し、私もお力添えすることが出来まして、当地区1640名の会員を代表して心から敬意を表したいと思います。

今創立20周年を迎えてガバナーを出さないクラブは4クラブ、創立30周年以上では13クラブあります。どの地区でもガバナーを出す事に皆さん困っているのです。しかも、岩手県と宮城県が又結婚致します。10年前に離婚させたのも私、今度結婚させるのも私という大変厳しい状況下にあります。ガバナー選出に対し、地区の困難に直面している時、30周年の歴史を経験して、我々のクラブがこうした日出度い式をし、更に40年50年の伝統の中に、ひととき立派な伝統を築き上げて行く為には、ガバナーを出す事も必要だと考えて戴きたいと思えます。

ロータリーには、色々な事を考えて論じている人々がいます。でも考えているだけではロータリーではありません。考える事と、行動する事との二面的な物が統合される事でロータリーが花を開いて参ります。

東京ロータリークラブ会長の牛尾治郎氏が昨年7月のクラブ会報の中で「最近、会員減少が起こっていると言う事は、ロータリー自体の存在理由に何らかの疑問を投げかけているのではないか、それは、目的と目標に対して我々が疑問を持っている証拠ではないか云々」と話しておられます。ロータリーの基本的哲学の認識の欠如、無関心ではないでしょうか。この事を理解しないで単にロータリーに入ったからと言ってロータリアンとしてのエンブレムを付けて事終わりと言う事はロータリーを冒瀆する事であります。

1940年に国際ロータリー年次大会がキューバのパハナで開催されました時の決議文があります。即ち「ロータリーは奉仕の理想を基に創設された、自由・真理・正義・誓約の厳守、及び人類の尊厳が存在しない所にロータリーは存在せず。その理想が榮える事も無い」というロータリー哲学であります。逆に言えば、自由・真理・正義・誓約の厳守、及び人類の尊厳が存在するところにロータリーは存在し、その理想が榮えると言う事です。それこそが我々の誇るロータリーの基本哲学であります。

さて、本日は私たちの友人「多賀城ロータリークラブ、ロータリアンの喜びと誇りを我々は共にして、明日への輝かしい門出を祝福しようではありませんか。過去は序幕と申しますが、今日までの30年間こそこれからのスタート時の序幕であります。今まさに幕が引き落とされた訳です。これから多賀城クラブの伝統に更に新しい価値ある、そして立派な伝統を付け加えて行く、今日はその出発点であります。」又、宮城ガバナーを出して戴きました多賀城ロータリークラブに再び感謝申し上げます。宮城年度が成功しますように祈念し、我々は全力で協力して参りたいと思います。思い起こせば1年前、わずか27名の手勢で伊達の故郷、岩出山から皆川清ガバナーが出て来て、現在まで立派に地区を統率して来た訳です。

この7月から坂上田村麿、大伴家持という戦人と歌人の由緒ある地から出てくる宮城東蔵ガバナーが、会員48名を引き連れて我々を指導し、運営し、一層の輝きを増して築き上げて来た歴史と伝統に富む第2810地区の幕をおろそうとされる訳であります。どうぞ皆さん、こよなくロータリーを愛し続ける私の事だからとお許しをいただいて、私の祝辞に代えさせていただきます。多賀城ロータリークラブと宮城東蔵ガバナー、そして第2810地区に永遠なる事をお祈りして終わりたいと思います。有難うございました。



祝 辞

国際ロータリー第2810地区

ハストガバナー 菅原 周

多賀城ロータリークラブは、仙台東ロータリークラブをスポンサークラブとして、1972年3月25日に発足し、同年5月3日正式に国際ロータリー加盟の認証を受けられました。貴クラブが創立30周年を斯くも賑々しく盛大に迎えられましたこと心からお慶び申し上げます。

「藍は青より出でて、青より濃し」と申しますが、貴クラブのスポンサークラブであり、栄光と伝統に輝く仙台東ロータリークラブを目標に、貴クラブが何時の日にか文字通り藍となって、第2810地区を代表するクラブに成長して戴きたいものと念願致しております。

近年、時は加速度的に流れ、一日一昔と言われるようになりましたが、ロータリーの歯車は、去り行く者、来る者全てのロータリアンを記憶に留めながら、永劫に地球を周回するであります。私たちは先達のロータリアンの灯に照らされ、迷う事無くその後に続いております。そして、私たちは後に続くロータリアンの為に道を照らさなければなりません。このようにロータリーの歴史は連綿として続き、全てのロータリアンがロータリーの歯車に名を記す事になります。同時に地球の隅々で苦しんでいる彼らの苦しみを自らの苦しみとして看過する事無く奉仕の手を差し延べたいと思います。

ロータリー発足当初、時のシカゴは進歩と貧困の共存する中、政治や経済の世界から闇の世界に至るまでボスが暗躍し、不信や貧困、疑惑と孤独に苛まれ、心底心の許し合える友を求めていました。そんな時ロータリークラブが発足したのであります。政治や宗教とは中立を保ち、親睦を促進しながら、不信感を排除し、特に懐疑的であった経済活動から、兄弟のような信頼関係を築く事により不信感を排除する事でありました。

多賀城ロータリークラブが30周年を迎えられた今日、日本経済は苦境に陥っております。この時こそロータリー発足当時の理念に立ち返り今日あるロータリークラブの意義を遡及、再検証する事によってクラブ内における奉仕の理想の紐帯を堅固に共有し、クラブからコミュニティへ、そして世界へとロータリーの連鎖を強く広く築かなければなりません。

このように、ロータリアンは何処にあらうとも自らの職業に励み、互いに助け合い、明るく楽しくロータリー精神を発揚し、コミュニティから、国境や民族を越え、世界中にこの精神を普遍的な価値として敷延する事が私達に課せられたミッションであると思います。

最後になりましたが、創立30周年を迎えられ、会長様を始め、幹事様、会員各位ご婦人方そして関係者の皆様、改めて心からお祝いを申し上げ、粗辞ではありますがご挨拶とさせていただきます。



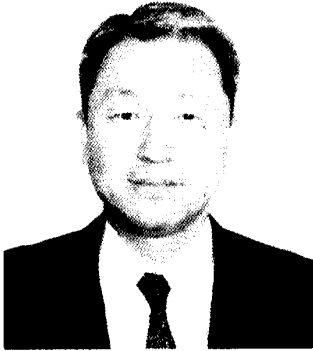
祝 辞

スポンサークラブ
仙台東ロータリークラブ
会長 庄 司 元

多賀城ロータリークラブ創立三十周年にあたり、一言お祝いの言葉を申し上げます。

多賀城ロータリークラブは昭和四十七年六月十八日、故佐藤一雄特別代表を中心に仙台東ロータリークラブがホストとなり設立されました。以来今日まで常に奉仕の精神をもって、諸事業を推進され、日常の活動を通じて奉仕活動を実践されておりますが、このたび創立三十周年を迎えられましたことは、誠におめでたく、心からお喜びを申し上げます。また、今日までの歩みは、一日一日が奉仕活動の積み重ねであり、同時に会員各位の友情の深まりであったと存じます。ここに日頃より目的達成のためご尽力されております会員の皆様に対し、深甚なる敬意と感謝の意を表する次第であります。ご承知の通り、今日の経済情勢は極めてきびしいものがありますが、このような時こそ、われわれは英知と力をもって、これに対処し、これを克服して参らねばなりません。こうした意味において、常に国際的見地に立ったロータリークラブの奉仕の精神は、単に会員の方々の自意自任にとどまらず、われわれ社会人としても、それぞれの立場から、その生活目標としていかなければならない精神であると存じます。どうぞ各員各位におかれましては、三十周年を新たな契機とされ、さまざまな奉仕活動を通じて、今後とも明るい地域社会づくりのためご尽力されますよう、念願いたします。

終りに、多賀城ロータリークラブの今後の尚一層のご発展を祈念致しまして、お祝いのことばと致します。



祝 辞

高岡万葉ロータリークラブ
会 長 沖 田 浄

「多賀城ロータリークラブ」の皆様、本日ここに創立30周年を迎えられ、第2610地区「高岡万葉ロータリークラブ」を代表し、心からお祝い申し上げます。

貴クラブとは平成3年10月に行われました多賀城市市制施行「20周年記念事業」万葉の歌人「大伴家持記念のつどい」が縁で交流が開始されました。それ以来毎年交互に訪問を重ね、会員各位並びに地域の皆様とも友好を深め、平成9年11月に友好クラブの調印をさせていただき、現在に至っております。その間先輩クラブとして長年に亘り、未熟な我々会員を、熱意ある献身的な指導をしていただき、ここに深く心から敬意を表し感謝を申し上げます。

さて、21世紀を迎えた今日急速に発展している高度情報化や地球規模で深刻さを増している環境問題、高齢化社会の到来など社会情勢が大きく変化しております。

多賀城ロータリークラブの皆様方には、このような時代の変化の流れを的確に把握され、奉仕活動や地域活動に積極的に参加され、個性豊かな活力ある地域社会の形成に一翼を担っていただけるものと大いに期待致しております。

最後に、会員の皆様方にはこの記念すべき「創立30周年記念」を更なる出発点とされ、地域社会の発展に寄与されると共に、多賀城ロータリークラブの今後益々の発展と、会員皆様のご健勝を心よりお祈りし、お祝いの言葉と致します。



祝 辞

江陵ロータリークラブ
会長 尹 徳 星

若草萌える季節を迎える4月の、多賀城ロータリークラブ創立30周年、誠におめでとうございます。また、江陵ロータリークラブ会員を招待して下さった田口俊男会長を始め、会員の皆様に感謝しております。

姉妹クラブである多賀城ロータリークラブと縁を結んだのが数日前のように考えられますが、もう22年の時間が過ぎました。2000年10月の江陵クラブの訪問と、今回の多賀城クラブ訪問を通じてより深い姉妹クラブとしての友情を感じております。

両国のロータリークラブは、国際理解と友好親善及び世界平和増進を目指して1980年10月23日姉妹クラブ調印式以来、国際交流と親善活動を続けて来ました。数年前には江陵ロータリークラブ会員の子6名が訪問し、国家間の利害を超える真の家族愛を感じられる良い機会だったと思っております。

これからは、両クラブがもっと先進的でより友好を深め合えるプログラムのもと、両クラブの国際的交流がより活発に発展出来るようにお互いに努力し合いましょう。

改めて多賀城ロータリークラブ創立30周年を祝賀し、会員並びにご家族の健康と幸せを祈願致します。



祝 辞

国際ロータリー第3730地区

総 裁 金 秉 珏

国際ロータリー第2810地区多賀城ロータリークラブの創立30周年、誠におめでとうございます。

貴クラブの創立30周年記念式典に於いて、姉妹クラブである江陵クラブが所属されている地区の総裁として、参加して祝賀の言葉を申し上げるのが当然だと思いますが、このような形で祝辞に代えさせていただく事になり誠に申し訳ございません。

30年間ロータリー活動に専念している貴クラブの田口会長始め、歴代会長及び会員の皆様とその奥様達の功労を心より賞賛致します。

多賀城ロータリークラブと江陵ロータリークラブは、97年の歴史を持つ国際的奉仕団体であるロータリーの一員として、自国の国際社会奉仕を実践する為に努力しており、両クラブが長い間深い姉妹関係を続けて来た伝統と歴史にも温かい激励の言葉を申し上げます。

私が知っている限りでは、R I 第2810地区と多賀城ロータリークラブは、国際ロータリーの中でも最も模範的な奉仕活動で有名だと聞いております。

国際ロータリーの使命の一つとして、国家間理解と友好関係を増進する事にあります。特に多賀城ロータリークラブの創立30周年行事では、江陵ロータリークラブの尹徳星会長を始め、25名もの沢山の会員が祝賀使節として参加する事は、姉妹クラブとしてより深い友好関係を築けるものと考えております。

私は、両クラブが交換訪問を通じて友好を深め合うだけでなく、お互いの地域の奉仕活動や国際奉仕活動において、斬新的な計画と実践がなされる事を期待しております。繰り返しになりますが、R I 第2810地区多賀城ロータリークラブ創立30周年記念式典をR I 第3730地区3000余名会員と共に祝賀しており、会場にいらっしやったご来賓とロータリー指導者皆様の幸福と健康を祈願致します。



祝 辞

江陵市長 沈 起 燮

尊敬する多賀城ロータリークラブ 田口俊男会長、江陵ロータリークラブ 尹徳星会長始め、ロータリアンの皆様！

世界の祝祭である韓日ワールドカップサッカーを60日余りに控え、伝統と歴史を誇る多賀城ロータリークラブ創立30周年を迎える事をとっても意味深い事と考えており、24万の市民と共に心からお祝いを申し上げます。

又、ロータリアンの崇高な理想を先頭に立って実践しており、この度の行動に私共の江陵ロータリークラブ会員達を招待して下さった田口会長を始め、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

振り返って見ますと多賀城ロータリークラブと江陵ロータリークラブが姉妹の縁を結んで山川草木が2回変わる時間が経ちました。その間、皆さんは民間外交使節としてその役割を忠実に遂行して来ました。“草野で奉仕”と言うロータリー精神を基本にして、共に過ごす張り合いがある人生を実践して来たロータリアンの皆様の温かい愛は、両国の友好協力増進に関与するところが多大であります。

尊敬するロータリアンの皆様！今私たちは希望の21世紀を力強く開いて行っております。希望に溢れる未来を創造するためには様々な困難もあると考えております。しかし、皆様が今まで重ねてきた信頼と友情を礎にして、お互いの意地と知恵を集めたらどんな困難も克服する事が出来ると思っております。

これからも、両クラブのロータリアンの皆様の関心と愛の中で多賀城市と我等の江陵市がより発展する事を心から期待しております。

最後に、もう一度多賀城ロータリークラブ創立30周年を祝賀し、今日の行事が皆様の友情を深め、韓日ワールドサッカーの成功開催にも寄与する機会になって欲しいものと思っております。有り難うございました。

多賀城ロータリークラブ30周年

記念講演 「東アジアの中の多賀城」

講師

東北歴史博物館

館長 岡田茂弘（おかだしげひろ）先生

…プロフィール…

本籍：東京都（神奈川県鎌倉市生まれ）

現住所：〒985-0863 宮城県多賀城市東田中二丁目40-27-908

生年月日：昭和9年(1934)1月29日（68歳）

現職等：東北歴史博物館館長・国立歴史民俗博物館名誉教授

略歴：昭和35年3月 同志社大学大学院文学研究科文化史(考古学)

専攻修士課程修了(文学修士)

同年4月 奈良国立文化財研究所歴史研究室員として
平城宮跡の発掘調査に従事。

昭和44年6月 宮城県多賀城跡調査研究所の初代所長として、
多賀城跡・同関連遺跡の発掘調査と東北各県の古代遺
跡発掘調査指導に従事。

昭和49年8月 東北歴史資料館副館長兼宮城県多賀城跡調査研究所長
として、東北歴史資料館の開館・運営に当たる。

昭和56年4月 国立歴史民俗博物館発足に伴い考古研究部助教授・同
教授・考古研究部長・情報資料研究部長を歴任。

平成11年3月 国立歴史民俗博物館を定年退官。

同年4月 東北歴史博物館長、現在に至る。

兼職等：日本銀行金融研究所顧問・学習院大学史料館客員研究員・宮城県多賀
城跡調査研究指導委員

主な編著書：『多賀城』中央公論美術出版 1977年

『日本の博物館4 古代史博物館』編著 講談社 1987年

『復元日本大観3 都城と国府』編著 世界文化社 1988年

1. はじめに

多賀城市の北端、大字市川の丘陵地を中心に広がる特別史跡多賀城跡が、古代の陸奥（むつ又はみちのく）の国の行政センターとしての、陸奥国府の所在地であった事は現在では良く知られています。このため、多賀城は古代日本の辺境であった東北地方の中心として受け取られてきました。しかし多賀城は、古代日本の東西で勃発した反乱の中で誕生した国家的な機関であると共に、東アジアをも視野に入れた機関だったのです。

2. 古代東北の中の多賀城

陸奥国は、「日本書紀」齋明天皇5年(659)に阿倍比羅夫の北征を援助した国司・郡領への叙位の際に「道奥国」として見え、次いで天武天皇5年(676)に陸奥国として初見し、設立された年は明記されていませんが、「常陸風土記」の記載から大化元年(645)の大化改新直後には設立されたと考えられています。しかし7世紀後半から多賀城が陸奥国府であったのではなく、「多賀城碑」に記されるように安察使兼鎮守府將軍大野東人(おおののあずまびと)の指揮で、神亀元年(724)に竣功しました。多賀城造営の直前は大崎地方の蝦夷(えみし)の反乱で安察使が殺害される事件があり、多賀城竣功の年にも海道の蝦夷の反乱で国司(大塚)が殺害されるなど不穏な状況でしたが、大野東人の指導で陸奥国の再編、民生の安定が行われて陸奥安察使が出羽国をも統括した事もあって、多賀城は8世紀末まで陸奥・出羽両国の行政・軍事の中心として機能しました。

宝亀11年(780)に起こった伊治磐麻呂(これほりのあざまろ)の反乱で多賀城の中樞部が炎上しましたが、引き続き蝦夷の中で復興され、中央政府からの征夷軍の文字通り根拠地となったことは多賀城政庁跡等から出土した漆紙文書によっても明らかです。延暦21年(802)に胆沢城が造営されると、程なく東北軍司令部の鎮守府は胆沢城に移されましたが、多賀城は変わらずに陸奥国府として機能し続けました。ただ、行政の決定が政庁でなく国司の館で行われるようになると、多賀城は徐々に形骸化して行き、10世紀後半には使用されなくなりました。

多賀城廃絶後の陸奥国府は、東山道の幹線に沿った岩切付近に移ったと思われます。しかし、東山道幹線上の岩切と多賀城とを結ぶ支線の東西大路(恐らく中世の「奥の細道」)は尚も機能しており、多賀城も東北の人々に意識されていました。多賀城政庁跡の南斜面では、城内南北大路を壊して建設された12世紀前半頃の掘立柱建物群の遺構と平泉系のカワラケや陶磁器類が出土しており、当時の陸奥国府と手を結んだ平泉藤原氏2代の基衡が出先施設を設置したものと想像されます。平泉では2代基衡の時期に毛越寺を建設し、その南大門前から北上川までの東西大路を軸線に都市計画が行われていますが、多賀城の東西大路を手本としていた可能性があります。

3. 古代日本の中の多賀城

多賀城の建設は東北地方の事情だけではありませんでした。多賀城の地での陸奥国府建設が行なわれる直前に大崎地方で陸奥安察使が殺害される蝦夷の反乱が有った事は既に述べましたが、蝦夷の反乱が起こった養老4年(720)の春には南九州での隼人の反乱で大隈守が殺害され、大伴家持(おおとものやかもち)の父、大伴旅人(たびと)を征隼人持節大將軍とした征討軍が派遣されています。隼人征討が終結しない同年9月に陸奥国で蝦夷の反乱が起こったのです。古代日本の東西両端での反乱の勃発は偶然ではなく、和銅3年(710)の平城京遷都以来急速に実施されてきた地方行政体制の再編成と中央政権化に辺境の少数民族が反発したものでした。東北地方でも和銅5年(712)に出羽国を設置して最上・置賜2群を陸奥からの教習、在京者の帰還、鎮所への殺物献納者への叙位などの施策が採択され、この政策を担当したのが大野東人で、玉造等五柵を防備する一方、在地勢力との融和を図ったと思われます。出羽に移し翌年には新たに大崎地方に丹取郡を設置して、北陸・関東地方の大勢の人民を陸奥

・出羽に強制移住させました。養老2年(718)には石城(いわき)・石背(いわせ)の2国を設置して、現在の福島県地域に当る地域を陸奥国から分割しました。このような地方再編成を主導したのは右大臣藤原不比等(ひふと)でしたが、彼は同年8月に病歿しました。不比等の後を受けて右大臣となったのは長屋王で、その主導の下で地方行政と、特に辺境政策が見直され、養老6年(721)に田百万町歩の開墾計画を始め、陸奥・出羽両国への租税の免税と射騎
その延長線上に天平21年(749)の陸奥國小田郡(現在の涌谷町付近)での黄金産出があり、平城京で建立中の大仏の塗金の料となった事はあまりに有名です。

しかし、8世紀中葉に中央で藤原仲麻呂(恵美押勝)が勢力を強めると、外では新羅に対する強硬姿勢を、内では国域の拡大政策が取られて、陸奥では桃生城、出羽には雄勝城が造営され、多賀城でも二期の整備が行なわれた事は、「多賀城碑」に押勝の息子の朝獺(あさかり)の事跡として記述されている通りです。国域拡大政策は仲麻呂一族の滅亡後も継続され、陸奥国では北辺で伊治城(これはりじょう)が建設され、遂に伊治砦麻呂の反乱を引き起こしたのです。

4. 東アジアの中の多賀城

天平21年に陸奥国で黄金が初めて産出した時、多賀城に在住していた陸奥守は百済王敬福(くだらのこにききょうふく)でした。姓の通りに百済王の子孫です。660年に百済が新羅と唐に亡ぼされると、百済最後の王の義慈王の王子二人が日本に滞在していました。その一人を担いで日本は百済遺臣と連携し、百済回復戦争を仕掛けますが、663年の白村江の戦いで完全敗北し、百済からの亡命者と共に撤退しました。日本に残っていた善光王は百済王としての待遇を受けましたが、7世紀末になると百済国(くだらのこにきし)の姓を与えられて中央貴族の一人として日本の官職に就きました。敬福は善光王の曾孫に当ります。百済の亡命者は各々官僚或いは技術者として日本で職を得ていましたが、亡命者相互の連絡と連携があったと思われます。天平21年当時平城京で、大仏鑄造の指揮を執っていた国中君麻呂(くになかのきみまる)は百済系の渡来人ですし、産金に関わって叙位された人にも渡来系の人々の名が見えますから、金不足の情報をつかみ、絶好のタイミングで献納したのでしょう。百済王氏の一族は9世紀になっても陸奥国府や鎮守府の官人として多賀城に在任しています。

陸奥国は、日本国内で見れば辺境東端の地ですが、日本海北部を見れば北海道サハリンを経由してシベリア沿海州に近いところです。8・9世紀には沿海州から中国東北三省にかけて渤海国が樹立されており、日本と国交を結んでいました。「多賀城碑」の書き出しには、平城京や常陸国・下野国からの距離とともに、蝦夷国境からの距離と靺鞨国境からの距離が記載されています。靺鞨(まっかつ)は沿海州から黒竜江下流域に居住していた民族名ですが、渤海国は唐に亡ぼされた高句麗の遺民と靺鞨の民とで成り立っていたと言われていました。天平宝字6年(762)に「多賀城碑」を建立した多賀城の人々にとっては靺鞨は身近な存在であったでしょう。

5. むすび 以上のように、1240年の多賀城人は東北地方だけに縮こまらず、日本全体更には、当時知る事の出来た東アジアの世界を視野に入れて活動していました。

21世紀の今日、交流できる世界は大きく広がっています。多賀城ロータリアンが世界を相手にと交流される事をお祈り致します。

多賀城ロータリークラブ 30周年記念事業

「多賀城に 立ちて落日に 向いけむ
家持とおもふ まぼろしの如」



建立日 平成14年4月4日
建立者 多賀城ロータリークラブ

—扇畑 忠雄先生 歌碑— (今年度、皇室での歌会始めの召し人となる東北の歌人)
万葉の秀れた歌人として、陸奥多賀城とゆかりの深い家持を追慕する為、昭和52年、東北大学名誉教授 扇畑忠雄先生が主体となり『大伴家持記念のつどい』を開催し、今日も多賀城市に引き継がれている。平成8年10月、市制施行25周年全国万葉フェスティバル記念事業を開催した折、披露された。

物故会員

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

氏名	命日	
(多賀城ロータリークラブ特別代表)		
佐藤 一雄 殿	1984年 (昭和59年) 10月31日	退会後
(名誉会員) 大場 源七 殿		退会後
(名誉会員) 伊藤 喜一郎 殿		退会後
伏谷 寿男 殿	1979年 (昭和54年) 1月7日	退会後
鈴木 喜六 殿	1983年 (昭和58年) 2月22日	在会
11代会長 後藤 新寿 殿	1992年 (平成4年) 7月1日	在会
8代会長 窪田 保記 殿	1994年 (平成6年) 2月6日	退会後
入野 誠 殿	1996年 (平成8年) 8月16日	在会
17代会長 谷崎 光三 殿	1997年 (平成9年) 5月22日	在会
渡邊 宏 殿	1997年 (平成9年) 6月21日	在会
角田 元 殿	1997年 (平成9年) 11月20日	退会後
小向 一男 殿	2001年 (平成13年) 3月5日	在会
初代会長 遠藤 信五郎 殿	2001年 (平成13年) 11月28日	退会後

多賀城ロータリークラブ表彰歴

1991～90年度

ロータリー財団寄付クラブ賞
会員増強率優秀クラブ賞

1992～93年度

ガバナー賞
ロータリー財団寄付推進クラブ賞

1993～94年度

1994～95年度賞

バランスのとれたクラブ賞

1995～96年度

バランスのとれたクラブ賞
会員増強R I 会長賞

1996～97年度

R I 会長賞
ロータリー財団推進クラブ賞
米山功労クラブ賞
市制施行25周年記念市制功労者賞

1997～98年度

ガバナー賞
(友好クラブ締結活動)
ロータリー財団功労クラブ賞

1998～99年度

会員増強に対するガバナー特別賞
ロータリー財団功労クラブ賞

1999～00年度

ガバナー特別賞
(四つのテスト理解促進)
ロータリー理解賞

2000～01年度

会員増強に関する優秀クラブ
ガバナー賞

江陵ロータリークラブとの記録

1980年10月23日。姉妹クラブ締結調印以来22年経過。当ロータリークラブの創立30周年記念行事に、遙か海の彼方、江陵から総勢25名のロータリアンがお祝いに駆けつけて下さいました。

江陵ロータリークラブの尹徳星会長さんからは、今日までの多賀城ロータリークラブとの、数々の友好関係の経緯をお話し下されました。

又、金秉？総裁(向こうではガバナー)からは「最も模範的な奉仕活動で有名な、第2810地区の多賀城ロータリークラブより、今後とも更に深い友好関係を求めています」との祝辞をいただきました。

江陵市長からは、多賀城ロータリークラブと、姉妹の縁を結んで、「山川草木が2回変る時間が経ちました。－草野で奉仕を－」と、変らぬ友情を呼びかけられました。多賀城ロータリークラブ21年～30年までの経緯を振り返ってみると、

平成6年(1994)10/18～19 ロータリー韓日親善会議 慶州 千葉パスト他7名出席(会長 中村栄昭 国際委員長 笹 芳一)

平成7年(1995)10/26 姉妹クラブ締結15周年パーティー 多賀城にて 尹会長他9名来日(ご婦人3名)

平成9年(1997)1/17～20 短期青少年交換 団長他6名来日

平成12年(2000)10/15～18 姉妹クラブ締結20周年記念式典に 江陵RC訪問 佐藤邦武会長・大場光夫国際奉仕委員長他8名参加

平成14年(2002)4/6～7 多賀城RC創立30周年記念式典に、尹会長他22名来日となっております。

特に、第9代鈴木秀男会長の時の本調印訪韓には、仲人役の菅野パストガバナーのご同行を賜わり、当クラブからは、第252地区ガバナー(仙台東)佐藤一雄氏のメッセージを託された8名の会員が出席。式典には、江陵市長、当地のガバナー・パストガバナーをはじめ、近隣ロータリークラブ会員のご参加のもと、盛大に挙行されました。

また、例会場には初めてマイクの設備をされ、バナーも姉妹クラブの締結を機にデザインも一新され、2代目バナーとして今に至っております。

江陵(こうりょう)「カンヌン・カンルン」

韓国、江原道東部の都市。南大川流域の日本海に臨む小平野の中心で、農産物の集散地。

干ガキが特産。嶺東地方からソウルに出る交通要地で、観光地としても発展。

人口23万(1966年 6万5千人)面積1,039.8km²平方km

高岡万葉ロータリークラブとの記録

平成3年の10月、多賀城市市制施行20周年記念事業「万葉の歌人、大伴家持記念のつどい」が縁で交流を開始。その前の年平成2年度より万葉に関わる諸準備から数えると7年の長きに亘り、深い交流を維持して参りました。

平成9年(1997)11月13日に友好クラブとして調印。現在に至ります。
今回の当クラブ30周年記念式典に、富山県高岡市の高岡万葉ロータリークラブの友好会員が大勢ご参会いただき、式典に華を添えて下さいました。

会長の、沖田 浄様から「高度情報化、地球環境問題、高齢化社会の対応など現在の日本の風潮の流れを的確に把握され、個性豊かな地域社会の形成に努力されるよう」との檄を賜わり、30周年を迎えて更なる決意で又全会員で、歩みを続けなければならないと感じさせられました。

・ 今日までの主な交流の状況

- 1991・5・2 高岡の尾竹睦子さんを通じて、多賀城市の「大伴家持顕彰式」式典・講演参加8名 高岡ロータリークラブとの友好の始まり。
(20代 菅野廣志 会長)
- 1992・3・27 高岡万葉ロータリークラブ訪問(8名)
 - 4・25 当クラブ20周年記念式典に高岡万葉RCより9名のご参加
 - 8・28 当クラブより「越中万葉夢幻譚」に5名観賞参加
(21代 後藤 進 会長)
- 1993・9・30 当クラブより「万葉朗唱の会」に6名見学参加
(22代 木村洋治 会長)
- 1995・8・26 当クラブより「越中万葉夢幻譚」に10名観賞参加
(24代 渡辺浩志 会長)
- 1996・8・24 当クラブより「越中万葉夢幻譚」に15名観賞参加
(25代 鈴木典雄会長)他に、多賀城市鈴木市長始め市観光協会より24名(総勢39名)。
 - 10・19 市都多賀城・市制施行25周年記念「全国万葉フェスティバル」に、高岡万葉RCより19名ご参加(25代 鈴木典雄 会長)
- 1998・11・13 当クラブへ、高岡万葉RCより23名出向いていただき、友好クラブ締結調印式(26代 影山英雄 会長)
- 1999・4・3 当クラブより、高岡万葉RC創立10周年記念式典に出席。
(27代 赤間利夫 会長)